

技術開発全体計画

北海道森林管理局

課 題	天然更新による広葉樹資源の持続的育成手法の確立					開発期間	平成30年度～令和14年度 2018年度～2032年度（15年間）
開発箇所	空知森林管理署 2513林班	担当 部署	森林技術・支援センター	共同研究 機 関	森林総研 北海道支所	技術開発 目 標	2
現 状 と 問 題 点	<p>人工林資源の充実により主伐再造林は喫緊の課題であり、当面は針葉樹主体の供給となることが見込まれている。</p> <p>一方、現在の広葉樹材の供給は外材が大半であるものの、北海道森林管理局では針葉樹人工林内に点在する広葉樹資源の有効活用に取り組んでいるところであり、これを含めた国内資源は充実している状況にある。</p> <p>広葉樹資源を持続的に育成していくためには後継樹の確保が不可欠であり、そのためには多様な樹種、多様な階層構造に誘導するための天然更新技術の確立が必要である。</p>						
開発目的 (数値目標)	<p>広葉樹の後継樹を確保するための施業（更新補助作業）技術の確立 （先駆性のカンバ類等以外の極相性有用広葉樹の更新（アオダモを含む））</p>						
開発方法	<p>開発箇所である「夕張広葉樹施業指標林」はアサダ等を主体とした広葉樹天然林で、下層植生はクマイザサが密生し後継樹の更新が期待できないことから、ササの根茎を除去する「地がき」による2つの更新補助作業を施工</p> <p>①根返し+小面積樹冠下地がき（小面積の疎開部でマウンドを活用した更新技術） 伐採木の伐根を根返し、周囲20m四方を地がき</p> <p>②傘伐型地がき（①より樹冠疎密度が低い林分での更新技術） 施工区画内（100m×50m）を試験伐採により様々な照度環境を設定し、区画を2分して全面地がきと筋状地がきを実施 全面区と筋状区の半分を鹿ネットで囲み、エゾシカの食害による更新への影響を調査</p>						
年 度 別 計 画	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3～6年度	
	<ul style="list-style-type: none"> ○夕張広葉樹施業指標林の試験結果の総括 ○現地の設計・調査 ○伐採事業実行 	<ul style="list-style-type: none"> ○更新補助作業の事業実行 ○販売流通調査 ○更新補助作業の工期調査 ○各種調査区の設定 ○種子散布量調査（シードトラップ） ○開発期間の延長 		○中間報告		○更新調査	
	<ul style="list-style-type: none"> 令和7・12年度頃に中間報告 ○中間報告年に調査し更新及び生育調査の結果検証（分析、取りまとめ） 令和14年度 完了報告 ○分析、取りまとめ 						